

令和5年 第3回文教厚生常任委員会会議録

令和5年3月7日 議員控室

○事 件

所管課報告事項

(1) 八雲町立八雲小学校少人数学級事業について（中間報告）（学校教育課）

○出席委員（8名）

委員長 赤 井 睦 美 君
大久保 建 一 君
齋 藤 實 君
黒 島 竹 満 君

副委員長 佐 藤 智 子 君
倉 地 清 子 君
能登谷 正 人 君
関 口 正 博 君

○欠席委員（0名）

○出席委員外議員（4名）

議長 千 葉 隆 君
安 藤 辰 行 君

横 田 喜世志 君
牧 野 仁 君

○出席説明員（2名）

教育長 土 井 寿 彦 君

学校教育課長 三 坂 亮 司 君

○出席事務局職員

事務局長 三 澤 聡 君

庶務係長 菊 地 歩 夢 君

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（赤井睦美君） それではお疲れ様です。

◎ 所管課報告事項

【学校教育課職員入室】

○委員長（赤井睦美君） 早速報告事項に入りたいと思います。八雲町立八雲小学校少人数学級事業について、学校教育課よりご報告よろしくお願いいいたします。

○学校教育課長（三坂亮司君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（赤井睦美君） 学校教育課長。

○学校教育課長（三坂亮司君） それでは八雲町立八雲小学校少人数学級の中間報告をさせていただきます。資料は一枚目しかございませんので、口答で説明させていただきます。座って説明させていただきます。

前回12月12日の当委員会において、例年約70人の新入学児童が入学する八雲小学校において学級編成が最大の35人の2クラスに編成されることが多いことから、教員の負担も大きくなること、児童が入学してから早々に取得させたい基本的な生活習慣や、学習習慣を取得させづらい環境を改善するため、北海道が行っている学級編成より更に進めた25人学級を導入するため、町が独自に教員免許を有した職員を令和5年度及び令和6年度にそれぞれ1名を採用を予定していることをご説明させていただきました。

この事業の現在の状況ですが、令和5年4月1日採用予定者については、令和5年の1月27日まで募集を募り、1名の応募がありましたが残念ながら採用には至りませんでした。そのため現在北海道の教職員にならい、期限付き職員として募集を行うこととし、同教委等にも人材の紹介をお願いしているところです。委員の皆様には中間報告としてご報告させていただきますので、現在の人材を募集ということでご理解いただければと思いますので、よろしくお願いいいたします。報告は以上です。

○委員長（赤井睦美君） ありがとうございます。このことについて質問やご意見はありませんか。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） 間もなく卒業式で、間もなく入学式なんですけれども、実際に間に合うのかなってところが心配です。

○学校教育課長（三坂亮司君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（赤井睦美君） 学校教育課長。

○学校教育課長（三坂亮司君） 今ちょうど教員の人事異動の時期でもありますので、そういった方々の中から八雲でこの事業に協力している方を、人材を今探している最中でしたのでご理解をいただけたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） 間に合わないという場合もあり得るのかなというふうに思うんですけども、そうすると70人くらい入ってくるのはやむを得ずになってしまうってことも想定しておいたほうがいいのでしょうか。

○教育長（土井寿彦君） 委員長。

○委員長（赤井睦美君） 教育長。

○教育長（土井寿彦君） その新しい1年生が2学級になるか3学級になるかということで、それで八雲小学校のほうもクラス編成や全て準備が必要になってきますので、4月1日までに任用できればというより、もっと早い段階で先生を何とか見つけなければならぬということ、やはり3月の下旬になるくらいがリミットと考えております。

教員不足は以前から言われている中、この施策を議員先生方にもご理解をいただいて、今新しい新年度予算に盛り込もうということで準備をしているところです。道教委でもかなり新採用教員が足りていなくて期限付き教員を非常に苦労して探している状況、これは例年もそうですしなお厳しくなっていると、私どもも何とかその時期までに探したいと思っています。折角の施策ですので、空振りに終わらないように何とか探したいと思っています。ただ佐藤副委員長がおっしゃるように、どうしても見つからない可能性があるという厳しい状況でございます。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） 多分、給与差は生じさせない様な手立てををすると思うんですが、役場職員として採用するというかたちで、その方が教員にということですが、なんか愚問なんですが、給与差はないんですか、どういうふうに対処していくんですか。

○学校教育課長（三坂亮司君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（赤井睦美君） 学校教育課長。

○学校教育課長（三坂亮司君） 佐藤委員ご指摘のとおり、給与差は確かにございます。それで教員のほうが給与の号俸的には教育職給料表を適用しておりますので給与が高い実情はありますが、採用する予定の職員に関しては、●●などもすることを確認しておりますし、また町職員と同様にある程度の時間外については時間外手当として支出することで差をなるべく小さくするようには考えているところです。その他の福利厚生については、ほぼ道と同じかたちになると考えていますので、そういった面の不具合はないと考えております。

○委員（佐藤智子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） 実際に結構差があるんじゃないかなって思うんですけども、それはそのやっぱり何らかの補助金みたいなかたちでやっていかないと、ちょっと申し込む方もそんなに差があるんだったらみたいなことになりませんか。

○教育長（土井寿彦君） 委員長。

○委員長（赤井睦美君） 教育長。

○教育長（土井寿彦君） おっしゃるとおりそれは懸念材用です。課長から申し上げたように本俸で定めます。ただ教員の場合は4%って調整額であとは時間外手当はない、私どもが任用する教職員については、本俸が教育職給料表、道よりもちょっと低い、それで教職調整額もないんですが、時間外勤務を行った分については時間外勤務手当を支給するというところでございます。ただ、それは期末勤勉手当に影響はありませんから、そこは低いです。ですのでどうしても給与差はこれは払しょくしきれないところは出てきますが、八雲町にずっと住み続けられるというところなんです。そこをメリットに思って、八雲出身の方や八雲町に住みたいという方に給与差のところは不利益といいますか役場職員と同じ給与なので、不利益とはなかなかいいがたいんですが、その条件で八雲町で教員ずっとやり続けてくれる方、何とかとっておりました。

先ほど申しあげた、一人だけ実は申し込み正職員であったんですが、ちょっと残念ながらその方は不合格になりまして、今後も今回とにかく目先のことを対応する、それが精いっぱい状況にございまして、次年度に向けても制度、先生方にもお認めいただきましたので、もっと早い時期から募集することが可能ですし、八雲町出身の方の情報もあることはあるんです。ですので2年目に向けて早めに取り組んでいこうと考えております。

○委員（佐藤智子君） もう一つ。

○委員長（赤井睦美君） 佐藤委員。

○委員（佐藤智子君） 正採用の方を考えてると思うんですけども、まだ正採用になっていない臨時をやりながらまた試験に挑んでいくってそういう臨時採用ってものは考えているんでしょうか。期限付きの。

○教育長（土井寿彦君） 委員長。

○委員長（赤井睦美君） 教育長。

○教育長（土井寿彦君） 臨時的任用は教員でいうと期限付き任用ということで、今まさに正規職員が得られなかったときに臨時的任用、期限付き教員を1年間とか見つけたいということで、それで正規職員が見つからなかったら期限付きで八雲で働いてくれないかって、それはあり得ると思って取り組んでいます。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） 今給与の面でちょっと思ったんですが、よく八雲町民というか八雲に移住してきたり八雲に住んでみたいとって住むんだけど、どうしても給与と家賃・生活費が合わなくて出ていっちゃうということを結構いろんな方から聞いていて、それも結構ネックだなって中にあるんですね、それでその臨時でも良いから期限付きで来てもらうってかたちで声掛けして、その方は教職員の今の住居に入るって感じなんですか。

○学校教育課長（三坂亮司君） 委員長、学校教育課長。

○委員長（赤井睦美君） 学校教育課長。

○学校教育課長（三坂亮司君） 倉地委員の質問ですが、当然教員住宅も入れるように手配をしたいと考えております。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

○議長（千葉 隆君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 議長。

○議長（千葉 隆君） 万が一という部分の前に、最大限道教委の協力も得ながら頑張っていくというかそういった部分で、それはそれで必要なことだと思うんですが、せっかくやっぱり 25 人学級というのも新しい施策として打ち出したときに、肝心の教員が確保できなかったということで、最悪のケースもお話されたんですが、私は途中でも募集し続けて採用したほうがいいんじゃないかなって思うんですね。それでいつからやるかというのも、いろいろ来年度からやるにしても、その 25 人学級に向けての準備や経験だとか、それから仕事もですね、実際に配置したら、たくさんあるはずなんですね、それで先ほど不利益な部分も賃金であるとしたら、1 年間そういう中でお試しじゃないけれども、準備期間として何か月でも、たとえば 8 月に採用されて、来年度からやるとしたら準備期間としてやるとか、そういう余裕を持ったかたちも、逆に言ったら若干来年度に向けて早く募集するにしても、それもまたリスクあると思う。ですから、ある程度長い期間駄目だとしても今回 3 月までに、3 月の中旬くらいまで募集かけて、それから逆に言ったらより良い人材、今採用不合格になったというのもありますから、少し余裕を持ったかたちで人材を募集かける、そういった取り組みが逆に言ったら最終的に 25 人学級の教育の質を高めるとか、そういうところに繋がって、結果やっぱり 25 人学級をやってよかったというモデルケースになると思うので、万が一そうだとした場合、ある程度そういったかたちというものをしていったほうがいいのかなって。当然、教育長がいうように 3 月中旬くらいまでには何とかしたいというのは理解するので、そういった余裕を持ったかたちとか、一番大切な本質は 25 人学級をやって、ある程度少人数化しながら質の高い教育を確保するって本質があるので、そういった、実際なかなか採用の面でうまくいかなかったら、逆に言ったらもうちょっと長い期間やりながら先行して投資するとか、そういう視点がやっぱり今判断するときには必要なのではないかなと思うんですけども、その辺どのようにお考えでしょうか。

○教育長（土井寿彦君） 委員長。

○委員長（赤井睦美君） 教育長。

○教育長（土井寿彦君） 大変ありがとうございます。学期がはじまりますと、二クラスで始まった学年が、年度途中で先生が見つかったから 3 学級にするというのはなかなか子ども達も落ち着かないので、年度途中で採用は、これはあまり良くないかなと思っていました。議長はそれを理解した上で今のお話をいただいたと思います。確かに新年度からすぐスタートは先生方も大変なので、年度途中から学校の子も達に馴染んだり、次この学年を持つとか、今の 1 年生たちの様子をよく見ることで八雲の子ども達の長所みたいところを把握することは、多分議長がお話しいただいたように、やることはたくさんあると思いますし、非常に充実した研修になると思いますので、今いただいたお話も有り難く、その採用に向けてどれだけ尽くしていくかをしっかりと取り組みたいと思います。ありがとうございます。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。非常に後ろ向きな質問ですが、多分数年後には、自然に 25 人以下学級になるんじゃないかって気持ちがあるんですけども、そのと

きに3年生でも4年生でも25人学級つくってほしいと思います。というのは、算数とかものすごく3年生から難しくなりますよね。それで最近の小学生から話を聞いて、算数が難しくついていけないって話をしてたんですが、やっぱりそうになると、先生が多いと習熟度別にして、授業も、充実した授業もしてもらえると子どもも助かるし、だから1、2年にこだわらず、町職員に戻そうなんて考えず、本当に3、4年でも、5、6年でも子ども達のために活用してほしいと思いますが、そういう考えは駄目ですかね。

○教育長（土井寿彦君） 委員長。

○委員長（赤井睦美君） 教育長。

○教育長（土井寿彦君） 誠にありがたいお話だと思っております。そういった子ども達の人数を、これをしっかりととらえながら、どういうふうな方向に向かっていけばいいのか、委員長がおっしゃるように、上の学年にいてもいいというのがもちろんありますから、そういったことをしっかりととらえながら、まず1、2年生で実施して、そういう時期が来たら、また次の世代の方々にご議論いただきながら、八雲の学校教育といたしますか、教育の充実がどういう方向に行くか、またその時期までにご検討いただけたらと思います。ありがとうございます。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。なければこれで終わります。ありがとうございました。

【学校教育課職員退室】

◎その他

○委員長（赤井睦美君） その他皆様からなにかありませんか。

（「なし」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） 事務局からなにかありませんか。

（「なし」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） 以上で文厚委員会を終わります。ありがとうございました。

[閉会 午前10時55分]